

★学校教育目標	◎すすんで学ぶ子 ○からだをきたえる子 ○思いやりのある子 ○最後までやりぬく子	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）		① 人権教育を基盤として、児童の自律的な学習・生活態度の育成を目指す。 ② 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を児童に定着させる。 ③ 自尊感情や自己有用感を高める指導を徹底する。 ④ 特別な支援が必要な児童への共通理解と早期対応を図る。 ⑤ 社会の一員として貢献する態度の育成を図る。
【めざす児童・生徒像】	①意欲的に学び、よく考え、自信をもって考えを表現できる子 ②しっかり話を聴く、最後まで聴く、規律正しく整然とした態度で学習する子	
【めざす学校像】	①共に生き、共に学び、一人一人が輝く学校 ②毎日、笑って、楽しく、幸せになれる小学校「笑楽幸（しょうがっこう）」	
【めざす教師像】	①心ひとつに、率先垂範で日常の指導にあたる ②授業力・指導力を向上させ、安定した学級経営を営む	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
子供	○自ら課題を発見し、考え、判断し、よりよく解決する確かな学力の育成を図る。	●授業改善推進プランを活用し、児童の学力向上、学習意欲の向上を図るとともに、思考力、判断力、表現力等を育むための学習活動を重視し、言語活動の指導の充実を図る。	◎個別指導、グループ別指導、習熟度別指導、放課後学習等により基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、指導の充実を図る。	3.2	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.3	4 100%の児童が「基礎的・基本的な学習内容が分かる。」と答えた。 3 90%以上の児童が「基礎的・基本的な学習内容が分かる。」と答えた。 2 80%以上の児童が「基礎的・基本的な学習内容が分かる。」と答えた。 1 「基礎的・基本的な学習内容が分かる。」と答えた児童が80%未満だった。	○評議員アンケート結果の評価点：3.85 ○学校公開アンケートの意見に「先生も授業を楽しんでいるように感じました。」という意見があつてとてもよい。 ○計画的・組織的によくできている。子供たちもよく頑張つて学習に取り組んでいる姿が見られる。 ○国語の学習の重要性を大切にしたい。（校内研究で行っている「書くこと」への取り組み）	○成果指標は3.3 ・協働的な学習を取り入れて学習活動をすすめる、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってきた。今後も定着を図るために、チャレンジタイム、個別指導、放課後学習等を活用し、学力の向上を目指す。 ・体験的な学習を通して関心を高める工夫を行い、指導の充実を図ることができた。 ・学習の定着が目標に到達していない児童には、放課後学習や補習講座等で個別指導をしてきた。今後も継続した取組を行っていく。
		●知識を学び、感性を磨き、表現力を高める読書活動を充実させるとともに、ICT教育により、情報を適切に選択・活用する能力を育成し、協働型・双方向型学習を推進する。	◎校内研究の充実、OJT研修の推進を通して、教員の授業力を高めるとともに、児童一人一人が活躍し、学び合い・認め合い、満足感・成就感が得られるような確かな学力の定着を図る。	3.4	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.5	4 100%の児童が「学び合い・認め合いの学習ができた。」と答えた。 3 90%以上の児童が「学び合い・認め合いの学習ができた。」と答えた。 2 80%以上の児童が「学び合い・認め合いの学習ができた。」と答えた。 1 「学び合い・認め合いの学習ができた。」と答えた児童が80%未満だった。	○評議員アンケート結果の評価点：3.38 ○自分の考えをしっかりと行う教育が行われている。 ○プレゼンテーション能力の習得が大切と考えている。今後、様々なプレゼンテーションに取り組むことが必要になってくると思う。 ○音楽会が素晴らしい。3週間て仕上げたとは思えない。和太鼓の演奏は、普段ではできない、よい経験になったと思う。	○成果指標は3.5 ・OJTは年間を通して実施し、教員が教材・内容・指導法・研究会で学んできたことを全体で共有できる場にしてきた。結果、自他ともに授業力の向上に役立てることができた。 ・ICTを積極的に活用し、授業を進めている。 ・「個人→ペア→グループ→全体」という流れを用いて考え方を共有している学習スタイルを取り入れ、協働学習を定着させた。
教職員・学校	○自分の大切さと他の人の大切さを認め、行動できる豊かな人間性の育成を図る。	●いじめ防止基本方針に基づく問題行動の未然防止と早期発見・早期対応及び学校不適応の解消のため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回相談員等を活用していく。	◎ふれあい月間の取組み等により、いじめを防止し、温かい人間関係の育成を図り、思いやりのある豊かな人間性と道徳実践力のある児童を育成する。	3.2	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.1	4 100%の保護者が「児童は、思いやりのある行動がとれている。」と答えた。 3 90%以上の保護者が「児童は、思いやりのある行動がとれている。」と答えた。 2 80%以上の保護者が「児童は、思いやりのある行動がとれている。」と答えた。 1 「児童は、思いやりのある行動がとれている。」と答えた保護者が80%未満だった。	○評議員アンケート結果の評価点：3.69 ○子供たちが大変喜んで気持ちが良い。 ○「あいさつ」がきちんとできており、学校での指導が行き届いていることがよくわかる。 ○家庭でも「あいさつ」の教育をしっかりとする必要が大切であると思う。	○成果指標は3.1 ・正しく「あいさつ」ができる児童を育成するため、率先垂範で指導に当たっている。 ・スクールカウンセラーと連携し、迅速な対応ができるように情報を共有化している。 ・児童一人一人のよさを具体的に共有させた活動を取り入れている。今後もよさを見い出せることができる教育活動を展開していく。 ・日頃から児童同士の言葉遣いやかかわり方等、気になることをそのままにしないよう、迅速な対応を行うようにした。
		●支援委員会等の組織的な校内体制の充実、リソースの活用、関係諸機関との連携、就学・進学支援シートの活用等を通して、児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。	◎よりよい人間関係を築きながら、自他のよさを認め、高め合う中で、自らのよさを発揮して将来の夢や希望を実現するため、他者とともに生きようとする心を育てるキャリア教育を推進する。	3.1	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.2	4 100%の保護者が「学校は、児童の教育的ニーズに応じた教育ができています。」と答えた。 3 90%以上の保護者が「学校は、児童の教育的ニーズに応じた教育ができています。」と答えた。 2 80%以上の保護者が「学校は、児童の教育的ニーズに応じた教育ができています。」と答えた。 1 「学校は、児童の教育的ニーズに応じた教育ができています。」と答えた保護者が80%未満だった。	○評議員アンケート結果の評価点：3.92 ○子供たちが楽しく学べる環境づくりになっている。 ○教員が丸となって子供たちの指導に当たっていることがとても素晴らしい。 ○これからは、世界の中の一人として行動する姿を目標にして、自分をいかにアピールして納得してもらい、理解を深めるかが大切になる。様々な経験をしたい方がよい。	○成果指標は3.2 ・ステップ教室の取組により、児童の学習に対する意欲が向上し、基礎基本の定着の一助となっている。 ・児童が主体的に学習に取り組めるよう、授業展開を工夫している。 ・リソースを活用し、個に応じた指導に努め、担任との連携を密にすることで、学習課題を達成してきた。 ・「特別の教科 道徳」の指導が始まることを受け、児童に、さらなる道徳実践力を高めたい。
地域・学校・家庭・社会	○たくましく生きるための健康・安全や体力の育成を図る。	●健康に関する実践的な活動の推進及び防衛体力の向上を図る。	◎自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養う。 ◎家庭や地域と連携して、基本的な生活習慣の確立や創意工夫を凝らした食育の充実を図り、生涯にわたる健康づくりの基礎をつくる。	3.5	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.4	4 100%の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。 3 90%以上の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。 2 80%以上の児童が「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた。 1 「健康な生活を送るための運動や食事を心がけている。」と答えた児童が80%未満だった。	○評議員アンケート結果の評価点：3.62 ○放課後、学区の公園で遊んでいる児童の姿が多くみられるようになっている。 ○公園だと遊びが制限されるものがあるので、かわいそうなのもあるが、よく遊んでいる。 ○ひのっちは、体育館など、体を動かして遊んでいる児童が多い。	○成果指標は3.4 ・生活調ベウィークや持久走ウィーク、給食指導などを通して、健康づくりの基礎を培ってきた。 ・手洗い、うがいの声かけをし、休み時間は外に出るように声がかかるようにしている。 ・給食の残棄がほとんど出ていない。 ・アクティブタイムをさらに充実させ、体を動かす楽しさ・心地よさを味わう体験を積み重ねていく。
		●児童の安全を守る、防災・交通安全・不審者対応等の訓練、セーフティ教室・薬物乱用防止教室の取組み、児童虐待防止研修セットの活用、学校危機管理マニュアルの改善、情報モラル指導や安全指導等を計画的に行い、安全管理と事故防止の徹底を図る。	◎児童自らが判断し命を守る意識をもたせる等、安全指導・健全育成に万全を期す。また地域・家庭との連携を深め、児童の登下校の安心・安全の確保に努める。	3.2	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.5	4 100%の児童が「自分の命は自分で守る。」と答えた。 3 90%以上の児童が「自分の命は自分で守る。」と答えた。 2 80%以上の児童が「自分の命は自分で守る。」と答えた。 1 「自分の命は自分で守る。」と答えた児童が80%未満だった。	○評議員アンケート結果の評価点：3.69 ○年間計画の中に「ふれあい月間」があるが、何かあったときには学校と家庭が連携することが大切だと思う。 ○朝の通学時間帯における交通安全指導や見守りにとても感謝している。 ○毎朝、スクールガードボランティアの方が登校の見守りをしてくださり、とてもありがたい。	○成果指標は3.5 ・避難訓練や毎月の安全指導を通して、安全教育を徹底して行うことができた。 ・災害時における状況判断力を身に付けるため、予告なしの避難訓練を実施し、自分の命は自分で守る意識を高めることができた。 ・「防犯シート」や「地震と安全」「SNS東京ノート」などを活用し、安全に対する基礎的な知識を身に付けさせた。 ・様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるために「SOSの出し方に関する教育」をすすめていく。
地域・学校・家庭・社会	○次代をつくる特色ある学校づくりを推進する。	●地域の自然環境や人材を活かし、自然体験、生活体験等の主体的な活動を通して、総合的な学習の時間と各教科との横断的な学びから生きる力を培う特色ある教育活動を推進する。	◎探究的な活動を通して、各教科の知識・技能と関連付けて成果をまとめ、自己の考え方を高めさせる。	3	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.4	4 100%の児童が「主体的に体験活動に取り組んだ。」と答えた。 3 90%以上の児童が「主体的に体験活動に取り組んだ。」と答えた。 2 80%以上の児童が「主体的に体験活動に取り組んだ。」と答えた。 1 「主体的に体験活動に取り組んだ。」と答えた児童が80%未満だった。	○評議員アンケート結果の評価点：3.59 ○子供たちが「主体的に取り組む」という体験学習の取組を行っていることが、大変素晴らしい。 ○「本物」を体験する魅力が、子供たちを一生懸命に活動させており、真剣さが伝わってくる。 ○4年生がお琴の学習をしていたが、和楽器を指導できる人が少なく、貴重な経験になったと思う。	○成果指標は3.4 ・地域の自然環境や人材を十分に活用することができた。（さつまいも栽培、東光寺大塚のたこあん掛け体験など） ・自然体験や生活体験を学習に取り入れ、本物を知る学習を展開する機会を大切にしている。 ・どんぐりクラブの方に協力いただき、多摩川土手や仲田公園の探索など、地域の特色を生かした活動ができた。 ・社会科見学等で本物体験をすることができた。 ・今後も本物を「見て」「聞いて」「感じて」「知る」体験学習を行っていく。
		●学校運営連絡協議会や保護者アンケート等の外部評価を活用し、家庭や地域の学校に対する多様な思いや願いを受け止め、学校教育の充実・改善を図る。	◎開かれた学校づくりを一層推進するため、学校の教育方針や実践活動等を広く学校webサイトや学校だより・学年だよりで発信する。	3.1	4 100%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 3 90%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 2 80%の教員が、具体的方策を意識して取り組んだ。 1 具体的方策を意識して取り組んだ教員が、80%未満だった。	3.3	4 100%の保護者が「学校は、情報発信を積極的に行っている。」と答えた。 3 90%以上の保護者が「学校は、情報発信を積極的に行っている。」と答えた。 2 80%以上の保護者が「学校は、情報発信を積極的に行っている。」と答えた。 1 「学校は、情報発信を積極的に行っている。」と答えた保護者は80%未満だった。	○評議員アンケート結果の評価点：3.85 ○運動会や学校公開アンケートで出された意見について、全ての内容が文章として示されていることを受けて驚いている。 ○メール配信が細やかなので、保護者でなくても、学校情報がよくわかり、ありがたい。 ○設問項目で、保護者アンケートにも関連した項目があると、学校教育と家庭教育の連携が児童に響いているかを知ることができるのではないと思う。	○成果指標は3.3 ・学校Webサイトや学校だより等を通して学校の教育方針や実践活動を十分に発信することができた。 ・学校だより・学年だよりや学級だよりで学校や学級の様子を伝えるようにしている。 ・保護者の要望や不安などはすぐに相談に応じ、管理職と相談しながら早期に対応ができるようにした。 ・アンケート項目について、重点計画との整合性を図りながら、今後検討していく。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。